

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：24201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11870

研究課題名（和文）人の観光にかかる意思決定構造のモデル化とローカル・リビングヘリテージの維持・保全

研究課題名（英文）Modeling the Decision-Making Structure of Tourism and the Preservation of Local Living Heritage.

研究代表者

藤木 庸介（Fujiki, Yosuke）

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号：70314557

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は「人の観光にかかる意思決定構造のモデル化とローカル・リビングヘリテージの維持・保全」について、専門領域の異なる複数の研究者による複眼的な視点から実施を行ったものである。人はどのような要素に起因して観光を行おうとするのか？また、人の観光を誘発する観光対象をリビングヘリテージと捉え、これをどのように維持・保全すべきなのか、現地調査を通して事象を観察し、考察を行うことを目指したものである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

例えば、電柱や電線は、景観を害する要素であり、観光地などでは景観上、弊害となるといった考え方がある。しかし、果たして本当にそうであるか？本研究結果の一端から、電柱や電線はむしろ観光客の景観に対する好ましさを誘発しているケースがあることが判明した。この様に、これまで曖昧であった人の観光を誘発する対象がなんであるのかといったことを、一定明らかにし、また、何を観光資源として維持・保全すべきなのかといった視点を導いたことに対して意義を有する。

研究成果の概要（英文）：This study, titled "Modeling the Decision-Making Structure of Tourism and the Preservation of Local Living Heritage," was conducted from a multi-faceted perspective by several researchers from different specialized fields. The aim was to examine the factors that prompt individuals to engage in tourism. Additionally, the study sought to view tourist attractions as living heritage and explore how they should be maintained and preserved. Through on-site investigations and observations, the researchers aimed to analyze these phenomena and provide insights.

研究分野：生活科学・文化遺産観光

キーワード：リビングヘリテージ 観光 居住文化 生活習慣 観光資源 意思決定構造

1. 研究開始当初の背景

ローカルリビングヘリテージ(以下「**LLH**」)は、例えば、確たる生活基盤を持たぬ貧困地域において、地域振興となる観光開発を行うための重要な観光資源である。ところが、こうした観光開発において、**LLH**を本来の姿とは異なる形で観光資源化し、そのことで**LLH**が変容、あるいは喪失する事例が各地において確認されていた。このような事例の一部には、本来の**LLH**が変容・喪失することで、観光開発自体が失敗し、**LLH**自体をも失ってしまうケースがあった。

こうしたことから、**LLH**を確実に維持・保全するためのシステム構築が必要であり、その上で、適切な**LLH**の観光利用を行うための具体的なメソッドを考案する必要があった。

それには、観光を行おうとするゲストが、ある観光対象の何に対して魅力を感じ、当該観光を行おうとするのか。このような人が観光を行おうとする意思決定構造を明らかにする必要があった。また、当該意思決定構造が明らかになれば、観光にかかるホストにおいて、何を観光資源として維持・保全すべきであるのかを知ることにもつながる。

しかし、当該研究開始当初において、こうした視点による研究はほとんど行われておらず、各地において本来の**LLH**が曲解され、テーマパーク化した観光地を確認するに至っていた。

2. 研究の目的

本研究では、各ケーススタディー地域において、主に以下の3点を実証的に明らかにする。尚、ここでの観光開発ステークホルダーとは、「現地の先住民」、「現地への流入民」、以上の2対象の内に重複する「現地観光業従事者」、並びに「観光開発デベロッパー」と「現地政府」であり、これに「ゲスト」を加えて調査対象者とし、導かれた研究結果の相互の差異について、特に重視するものである。

調査対象者における、以下の項目に関する一次認識の実態。

I-i 「何を指して**LLH**だと認識」し、これは「今後どうあるべきだ」と考えているのか。

I-ii 「何が当地の観光資源で、何が当地の観光資源ではない」と考えているのか。

I-iii 「観光開発に何を期待し、あるいは何を期待しない」のか。

観光開発ステークホルダーサイドの「観光開発を推し進めようとする、あるいは観光開発を推し進めようとはしない」、その人的指向性と、これにかかる意思決定構造。

ゲストサイドの「観光を行おうとする、あるいは観光を行おうとはしない」、その人的指向性と、これにかかる意思決定構造。

3. 研究の方法

第1に、観光開発ステークホルダー、ゲストの双方における調査対象者に対し、明らかにするべき上記3点に関連するヒアリングと行動観察を行い、その実態を導く。

第2に、 におけるヒアリングと行動観察から導かれた結果を基に、**I-i**に挙げた「**LLH**と認識」されたもの、並びに、**I-ii**に挙げた「観光資源、または観光資源ではない」と考えられている対象を、記録(実測・写真撮影・録音など)する。

上記 を、研究メンバー間において相関的に分析する。この際、研究協力者にも分析への参加を依頼する。また、この分析結果を用いた上で、研究目的に向けた議論を各種研究会や学会を通して行い、人の観光にかかる意思決定構造のモデル化を導く。

上記知見は、学術論文のみならず、一般書籍化し、広く社会に対して発信を行う。

尚、本研究は以下に示した4つの視点から行い、これを研究代表者が総括する。

[1] 「建築・景観」に関連する視点：(担当) 藤木・北山

[2] 「服飾」に関連する視点：(担当) 上田

[3] 「ジェンダーの差異」に関連する視点：(担当) 神田・横田

[4] 「人の消費心理」に関連する視点：(担当) 山田

4. 研究成果

本研究はコロナ禍の時期に当たったことから、行動制限や渡航制限により、上記に述べた研究目的が、研究の方法に則して必ずしも成し遂げられたとは残念ながら言い難い。しかし、そのなかでも各研究者はできる限りの調査・研究を行い、その成果は学会発表(オンライン)や論文、著書にて公表を行った。

各研究者の成果を総合的に述べるならば、下記の3点にまとめることができよう。

観光地においてゲストが求める要素、例えば、景観について言えば、ゲストが求める要素と観光開発ステークホルダーが「良し」と考えている要素とは必ずしも合致しないケースがある。例えば、町並み景観等で議論になることが多い「電柱や電線」は、観光地の景観として否定的要素ではなく、むしろゲストの観光経験の記憶を形成する上で役立つケースが確認される。

観光開発ステークホルダーが観光資源として重視する、観光サイトの歴史的背景や独自の文化遺産等に対して、ゲストサイドは必ずしも重要性を感じていない、あるいは、それ自体を意識していないケースがある。一方、ゲストは伝統的な要素よりも、観光時におけるその時々を楽しむための「イベント」や「食事(食べ歩きを含む)」、「写真映えする風景」を求めるケースが確認される。

以上から、ゲストがある地域を観光するにあたり、観光開発ステークホルダーサイドはゲストに対して、その地域における正しい歴史的・文化的価値の理解を、ゲストが観光を実施する以前に提供し、理解を促す取り組みの実施が喫緊である。また、観光開発ステークホルダーの多くにおいて、当地における本来の歴史的・文化的価値を全面に押し出した観光形態を形成しようとする動きよりも、観光にかかる利益を優先し、ゲストに迎合した作為的な観光形態の提供があり、これをすみやかに是正することも重視される点であろう。

以上が本研究の成果概要である。ただし、重ねてとはなるが、現地調査を主たる研究手法とする本研究において、コロナ禍による行動制限・渡航制限は、研究の実施を妨げる決定打となってしまった。そのなかにおいて、特に最終年度には漸く行動制限や渡航制限が解除される方向に向い、少なくとも、今後に向けた研究の足がかりを得ることはできた。本研究においてやり残したことは少なくはないが、本研究で得た知見を基礎として、新たな研究に着手するための基盤固めにはなり得たものと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 北山めぐみ・藤木庸介	4. 巻
2. 論文標題 室戸市吉良川町における製炭業から見る景観構造 - 製炭業を核とした文化的景観に関する研究 その2-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会 学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.49-50.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黄宇揚・藤木庸介	4. 巻
2. 論文標題 彦根市における宿場町の景観構成について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会 学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.951-952
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横田祥子	4. 巻 13
2. 論文標題 書評 川口幸大・堀江未央 (編) 2020 『中国の国内移動：内なる他者との邂逅』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 年報人類学研究	6. 最初と最後の頁 不明
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Ueda, Milou Voorwinden	4. 巻 No. 4
2. 論文標題 The Innovative Development of the Jacquard Weaving Machine in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of the Asian Conference of Design History and Theory	6. 最初と最後の頁 65-73.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤木庸介・横田祥子・セバスチャン ヴィンセント	4. 巻 Vol.14
2. 論文標題 インドネシア・スンバ島における民家の現状と住人の防火意識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立命館大学歴史都市防災研究所 歴史都市防災論文集	6. 最初と最後の頁 PP.131-138 .
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yume Uchida・Sawako Utsumi・Yosuke Fujiki	4. 巻 49号
2. 論文標題 Regional Identity of a World Heritage Site, Hoi An Ancient Town, Vietnam.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 滋賀県立大学人間文化学部 『人間文化49号』	6. 最初と最後の頁 pp.2-7.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤木庸介・横田祥子・中井均	4. 巻 2020年度大会
2. 論文標題 現在に見るギャロン・チベット族民家の構成とその使用実態-1 中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その4-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会 学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.117-118.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横田祥子・藤木庸介・中井均	4. 巻 2020年度大会
2. 論文標題 現在に見るギャロン・チベット族民家の構成とその使用実態-2 中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その5-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会 学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.119-120.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中井均・横田祥子・藤木庸介	4. 巻 2020年度大会
2. 論文標題 立地からみたカルの機能 中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その6-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本建築学会 学術講演梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.121-122.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北山めぐみ・藤木庸介・山村高淑・張天新	4. 巻 第66号
2. 論文標題 中国雲南省の世界遺産都市・麗江旧市街地における町並みの変容に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 独立行政法人国立高等専門学校機構高知工業高等専門学校学術紀要	6. 最初と最後の頁 pp.27-36.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 神田孝治	4. 巻 125
2. 論文標題 COVID-19時代のツーリズム・モビリティーズと場所 2020年における与論島の状況に注目した一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 pp.49-76.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田香	4. 巻 2号
2. 論文標題 江戸時代の手織り縮緬の復元と新たな展開—千總コレクションの調査・分析を踏まえて—	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 總文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 pp.72-83.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田香、加茂瑞穂	4. 巻 第45号
2. 論文標題 千總コレクションにみる明治・大正期の型友禅とその生地	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 pp.13-20.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田香	4. 巻 45
2. 論文標題 KYOTO Design Lab Textiles Summer Schoolの活動と丹後縮緬	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 pp.71-78.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤木庸介・北山めぐみ・張天新・山村高淑	4. 巻 Vol.48
2. 論文標題 観光開発が歴史的市街地の伝統的民家に与えた影響 - 2017年時における中国雲南省麗江市旧市街地を事例として -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人間文化	6. 最初と最後の頁 pp.26-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 藤木庸介・SAI Ben Jia・中井均	4. 巻 -
2. 論文標題 ギャロン・チベット族の生活空間に関する知見の整理 -中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その1-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.69-70.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 中井均・SAI Ben Jia・藤木庸介	4. 巻 -
2. 論文標題 カルの機能に関する一考察 -中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その2-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.71-72.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 SAI Ben Jia・中井均・藤木庸介	4. 巻 -
2. 論文標題 丹巴県中路郷におけるカル(mkhar)の分布と構造の特徴-中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その3-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.73-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 内田夢・内海佐和子・藤木庸介	4. 巻 -
2. 論文標題 歴史的市街地における建築物のファサードの現状 -世界遺産都市・ベトナム・ホイアンをケーススタディとして-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.1081-1082.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北山めぐみ・本塚智貴・武政正樹・藤木庸介	4. 巻 -
2. 論文標題 演劇を通じた伝統的木造建築における多様な空間利用の可能性 -高知県香南市赤岡町・赤れんが商家を事例に-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本建築学会大会学術講演梗概集・建築デザイン発表梗概集	6. 最初と最後の頁 pp.981-982.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田歩	4. 巻 46, 70 75.
2. 論文標題 「もっともらしい理由の利用可能性が自己報告に与える影響 経路選択課題を用いた検討」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『人間文化』（滋賀県立大学人間文化学部）	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 北山めぐみ・藤木庸介
2. 発表標題 室戸市吉良川町における製炭業から見る景観構造 —製炭業を核とした文化的景観に関する研究 その2—
3. 学会等名 2021年度日本建築学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黄宇揚・藤木庸介
2. 発表標題 彦根市における宿場町の景観構成について
3. 学会等名 2021年度日本建築学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神田孝治
2. 発表標題 動きゆく目に見えぬもの—COVID-19からの問い
3. 学会等名 シンポジウム「COVID-19以後の 新たなモビリティ・パラダイム モビリティを越えるモビリティ研究」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 神田孝治
2. 発表標題 観光学3.0へ向けたメタモダニスト的視座からの問いーCOVID-19の影響に注目したツーリズム・モビリティーズの再考を通して
3. 学会等名 観光学術学会第10回大会・シンポジウム「ライティング・ツーリズムーCOVID-19以降の観光研究とは」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横田祥子
2. 発表標題 ラトツを媒介にしたコミュニケーション：インドネシア西カリマンタン州の事例から
3. 学会等名 2021年度日本華僑華人学会研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kaori Ueda
2. 発表標題 The innovative development of the Jacquard weaving machine in Japan
3. 学会等名 Asian Congerence of Design History and Theory (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田歩・加藤彩香・藤木庸介
2. 発表標題 電柱と電線は景観を損ねるか 京都東山と広島尾道の景観を題材として
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田歩・藤木庸介
2. 発表標題 電線・電柱は景観を損ねるか - 評価者の評価モードに着目した検討 -
3. 学会等名 第15回日本感性工学会春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤木庸介・SAI Ben Jia・中井均
2. 発表標題 ギャロン・チベット族の生活空間に関する知見の整理 -中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その1-
3. 学会等名 2019年度日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中井均・SAI Ben Jia・藤木庸介
2. 発表標題 カルの機能に関する一考察 -中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その2-
3. 学会等名 2019年度日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAI Ben Jia・中井均・藤木庸介
2. 発表標題 丹巴県中路郷におけるカル(mkhar)の分布と構造の特徴-中国四川省ギャロン・チベット族の生活空間:その3-
3. 学会等名 2019年度日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内田夢・内海佐和子・藤木庸介
2. 発表標題 歴史的市街地における建築物のファサードの現状 -世界遺産都市・ベトナム・ホイアンをケーススタディとして-
3. 学会等名 2019年度日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北山めぐみ・本塚智貴・武政正樹・藤木庸介
2. 発表標題 演劇を通じた伝統的木造建築における多様な空間利用の可能性 -高知県香南市赤岡町・赤れんが商家を事例に-
3. 学会等名 2019年度日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤木庸介・北山めぐみ・山村高淑・張天新
2. 発表標題 中国雲南省麗江旧市街地の主要街路における町並み変容の実態 -観光地化が世界遺産都市・麗江に与える空間的・社会的インパクトに関する研究 その19
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 北山めぐみ・藤木庸介・山村高淑・張天新
2. 発表標題 中国雲南省麗江旧市街地の主要街路における町並み変容の実態 -観光地化が世界遺産都市・麗江に与える空間的・社会的インパクトに関する研究 その19
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yosuke Fujiki
2. 発表標題 The actual situations of traditional dwellings in a World Heritage Site, the Old Town of Lijiang, Yunnan Province, China
3. 学会等名 International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koji Kanda
2. 発表標題 The various aspects of hospitality in tourist places: A case study of Yoron Island in Japan
3. 学会等名 International Conference on Future of the Past: Tourism and Cultural Heritage in Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中野 築 高橋七星 北山 めぐみ 中野新
2. 発表標題 四万十市中村における歴史的重層性に関する研究 その1 -建築物ファサード調査から-
3. 学会等名 日本建築学会四国支部研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北山 めぐみ 高橋七星 中野 築 中野 新
2. 発表標題 四万十市中村における歴史的重層性に関する研究 その2 -地割の変遷から-
3. 学会等名 日本建築学会四国支部研究報告会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横田祥子
2. 発表標題 Changing Cross-border Marriage Migration of Indonesian Women: A Case Study of Singkawang, West Kalimantan, Indonesia
3. 学会等名 International Workshop on Marriage Migrants in Asia: Mobility and Agency、台湾国立成功大学性別與婦女研究中心&WUN (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横田祥子
2. 発表標題 ダヤック人の神格化に見る世界観の交差：インドネシア西カリマンタン州の民間信仰から
3. 学会等名 2018年度日本華僑華人学会研究大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 Yosuke Fujiki and Hitoshi Nakai (著) Takayoshi Yamamura and Philip Seaton (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 176
3. 書名 'Castles and castle towns in Japanese tourism' "War as Entertainment and Contents Tourism in Japan"	

1. 著者名 神田孝治・森本泉・山本理佳 (編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 222
3. 書名 『現代観光地理学への誘いー観光地を読み解く視座と実践』	

1. 著者名 藤木庸介（著）神田孝治・森本泉・山本理佳（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 222
3. 書名 「観光計画学」『現代観光地理学への誘いー観光地を読み解く視座と実践』	

1. 著者名 藤木庸介（分担執筆）横浜国立大学都市科学部（編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 1026
3. 書名 都市科学辞典	

1. 著者名 藤木庸介（監修）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小学館	5. 総ページ数 197
3. 書名 ドラえもん探求ワールド 地理が学べる世界の家づくり	

1. 著者名 神田孝治（著）須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎（編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 0
3. 書名 「空間」『よくわかる観光コミュニケーション論』	

1. 著者名 神田孝治 (著) 遠藤英樹 (編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 0
3. 書名 「歓待と非歓待のあわいで揺れるー与論島にみるCOVID-19時代の観光移動と観光地」 『アフターコロナの観光学ーCOVID19以後の「新しい観光様式」』	

1. 著者名 横田祥子 分担執筆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 500
3. 書名 わたしの学術書ー博士論文書籍化から見えてきたこと	

1. 著者名 Sachiko Yokota Authored Chapters in Books	4. 発行年 2022年
2. 出版社 World Sceintific Publishing Company	5. 総ページ数 376
3. 書名 When East Asia Meets Southeast Asia	

1. 著者名 横田祥子 分担執筆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 416
3. 書名 台湾を知るための72章 第2版	

1. 著者名 横田祥子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 258
3. 書名 家族を生み出す：台湾をめぐる国際結婚の民族誌	

1. 著者名 藤木庸介・他（著）・布野修司（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 942
3. 書名 世界都市史事典	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 歩 (Yamada Ayumi) (00406878)	滋賀県立大学・人間文化学部・准教授 (24201)	
研究分担者	北山 めぐみ (Kitayama Megumi) (40734257)	高知工業高等専門学校・ソーシャルデザイン工学科・准教授 (56401)	
研究分担者	上田 香 (Ueda Kaori) (50510583)	嵯峨美術大学・芸術学部・准教授 (34322)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横田 祥子 (Yokota Sachiko) (80709535)	滋賀県立大学・人間文化学部・准教授 (24201)	
研究分担者	神田 孝治 (Kanda Koji) (90382019)	立命館大学・文学部・教授 (34315)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関